

8-3-5 建設コンサルタントの新たな役割 検討WG

1. 主な活動の記録

(1) WG の開催

WG 開催回数：8回（企画委員会と同一日に開催）

(2) WG の活動内容

当 WG は、中期行動計画（2019～2022）の施策「1-1 社会資本整備のあり方と建設コンサルタントの役割の提案」を担当し、国民ニーズと社会環境の変化を踏まえて、今後の社会資本整備のあり方や建設コンサルタントの果たすべき役割を検討し提案することを目的としている。

a) 未来予想からみた新たな役割検討

2050年までの世界及び日本の未来予想（人口、経済、科学技術、気候変動、エネルギー、インフラ、宇宙等）を文献等より整理し、今後の社会資本整備のあり方と建設コンサルタントの役割について議論を行った。

① 今後の社会資本整備のあり方

- ・生産性を向上させるインフラの集中整備、適度な分散
- ・地方中枢・中核都市の機能強化や地域計画を上位とする各インフラ整備の統合化
- ・国土強靱化、防災・減災
- ・SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境にやさしい魅力的なまちづくり
- ・情報通信基盤や情報のアクセス等に関するデジタル格差の解消、リアルとバーチャル（オンライン）の融合
- ・Society5.0(AI, IoT, スマートシティ, 自動運転, 遠隔医療, ドローン等)が実現した社会における条件不利地域の活性化・・・等

② 未来予想からみた新たな役割検討

- ・インフラのマネジメント（政策・エリア・事業）
- ・事業主体（SPC）、アライアンス（同業他社との連携、異業種との連携）
- ・地方公共サービスの技術支援
- ・オンライン型コンサルティング

b) 地域コンサルタントの視点からみた新たな役割検討

今後の社会資本整備のあり方や新たな役割を検討する上で、地方中枢・中核都市の機能強化や地域計画を上位とする各インフラ整備の統合化等が重要と考えられることから、地域コンサルタントへ下記の項目で意見照会（令和2年9月30日付）を行った。ここでの意見を参考に引き続き検討中である。

① 地域コンサルタントへの支援策

- ・インフラデータプラットフォーム、スタートアップ企業とのマッチングサポート、AI導入利活用支援

c) ニューノーマルの視点からみた新たな役割検討

「コロナ後の「新しい社会」とこれを支えるべき「社会インフラ」について」の研究メンバー（インフラ研）との合同で建設コンサルタントのDX推進方策などを議論しているところである。

2. 次年度の活動について

これまでの議論を踏まえ、以下について検討する。

(1) 建設コンサルタントの新たな役割検討

事業主体（SPC）、アライアンス（同業他社との連携、異業種との連携）、地方公共サービスの技術支援といった新たな役割の検討を行う。

(2) 地域コンサルタントへの支援策検討

インフラデータプラットフォーム、スタートアップ企業とのマッチングサポート、AI導入利活用支援といった協会会員向けのサービスを検討する。検討に際しては、インフラストラクチャー研究所と合同協議により検討を進めるとともに、必要に応じて地域コンサルタント委員会へ意見照会を行う。

(3) 提言書のまとめ

令和元年度からの議論の経緯を踏まえ、提言書を取りまとめる。

（建設コンサルタントの新たな役割検討WG

WG長 村上 広）